

だけど1つ教えられたのは、何を基準にするかで“普通”の意味が変わるということです。
私たちはどうしても自分を1番の基準にするんじゃないですか？
皆さんはどんな人ですか？普通の人ですか？何を基準にするか、何を“普通”の基準にするかによって、“普通”が褒め言葉にもなるし、失礼な言葉にもなる。

今日ご紹介したい聖書というのは、神の基準が書いてあるんです。人の基準じゃない。
神が人をご覧になった時、人をどのように評価なさっているんだろう？神がこの世界をご覧になった時、この世界はどう映っているのだろう？神がこの時代をご覧になった時、この時代はどんな時代なんだろう？終わりの時代です。

神はどんな方で、どのようにこの世界をご覧になっているのかは、人間同士が話し合っても分かりません。聖書の中に書いてあるんです。

そこで今日は【創造主に至る唯一の道 キリスト】について、一緒に考えたいと思います。

I ペテロ 3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

ここに、キリストがこの世界に来られた理由が書いてあります。あなたがたを神に導くために。あなたがたを神に導くために1度死なれ、3日目によみがえられました、と書いてあるんですね。ここで言っている神様は人間が作った神ではなく、人間を造った方。私たちの作者・造り主のことです。

家（うち）のリビングに行くと、時々家で取ってない新聞が置いてある。日本経済新聞。息子が社会人になって「ああ、日経読むようになったんや…。経済新聞読むんや…」思て。社会人になったら経済新聞読むようになるんですね。今の日本の景気のことやライバル企業のこと・業界のことも書いてあるかもしれないというので。

日経が時々テレビコマーシャルやってますよ。数年前に、“日経読んで差を付けよう”というのがあった。普通の新聞やない。日経読んで差を付けよう。同期に差を付けよう。ま、それいいですよ。それからしばらくして、またコマーシャル打ってる。“みんな読んでる日経”。みんなが読んだら、差付く？みんな読んでなくて、自分だけ読んでるから差が付くんでしょ。“みんな読んでる日経”“日経読んで差を付けよう”。差付けへんがな。つまり、そのときそのときで適当なこと言っているから、キャッチコピーをズラーっと並べて行くと一貫性がないんですね。これを矛盾と言うんです。

聖書は今から3500年前から編纂されて、1900年前に完成しました。1600年かかって書かれた書物ですが一貫性がある。最初から最後まで、「この世界を造られた神はどんな方か？私たちが愛しておられる方だ。私たちが罪から救い出そうと働きかけておられる方なんだ」と言うのです。

聖書の1番最初の書物は創世記。その最初、1行目に何と書いてあるか。

創世記 1:1 はじめに神が天と地を創造された。

この言葉は、現代物理学の基本的概念を見事に言い当てている言葉だと言われています。

ここにお茶碗があります。この茶碗が存在するためには茶碗という物質が必要ですね。
でも物質だけでは駄目で、茶碗が存在出来るための空間が要るんです。
そして、空間に存在している茶碗は永遠の昔からあったんじゃなくて、今私が置いたのでここにある。
すなわち、時間的な特定ポイントが必要なんです。

何か物が存在するためには3つが必要です。①存在する物質そのもの。②その物質が存在するための空間。③特定の時間を表す時間。時空物。時間と空間と物質。これは神が1つの連続体として始められたものなんだ、と言っている。

はじめに：時間。天：空間。地：物質。それをエネルギーを持って造られた。創造された。
全宇宙の第一原因者は神だ。神はこの時空物を1つの連続体として創造された。相対性理論はそういうことですよ。

だから、“日経読んで差を付けよう”じゃないんですよ。一言一句突き詰めて行ったとしても、深い意味がある。私たちの作者である方について語っているんですよ。

それで、神がおられるということを一々説明しません。親が子供に手紙を書く時、親の存在を説明しますか？「アンタが生まれてるのは、私がいてるからや」という話ですよ。「親が存在していることを今から説明します」って、そんなんいてない。創造主なる神様を神と言います。

あなたがたを神に導くためでしたということは、あなた方はキリストによらない限り、まだ神のみもとにいませんという意味です。神のみもとに導くためにキリストが来られて、あることをしてくださった。キリストがその業（わざ）をしてくださらない限り、私たちは1人として神のみもとにはいない。神様から離れていること・創造主に背中を向けて神との関係を断ち切っていること・神なんか、いてもいなくても私には関係ないという人生観で生きることを、聖書は罪と語るのです。聖書を読むと、罪という言葉の多いこと多いこと。何でそんなに罪罪罪罪言うのか？

昔ある本で読んだのですが一休さん。いっきゅうさん♪ マルコメみそを見ると一休さんを思い出す。村外れにもものすごく曲がりくねった松が生えていて、一休さんが村人に「この曲がりくねった松を真っ直ぐに見た者には金一封を差し上げる」と、とんちクイズを出しました。もう、寝転んで見る者・他の木の上から見る者・はすかいい見る者。でもどんな角度から見ても、曲がっているから曲がってしか見えない。「どこから見ても曲がってますわ、一休さん！」そのとき一休さんが「その通り。曲がった松を見て『ああ、曲がった松だなあ』とありのままを見ることを真っ直ぐに見ると言うんだ。」

神様はなぜ人間に向かって罪罪罪・罪人と言うのか？神は人間を真っ直ぐにご覧になる方だからです。罪人なのに罪人でないと言うようなリップサービスや、耳当たりの良いことは言いません。それは嘘だから。神は真実な方なので、嘘を付くことは出来ないんです。しかし、罪人に向かって「罪！」と言った時、そこには悲しみはあるかもしれないけど、見下すような軽蔑するようなのはちょっと違うんですよ。

先日ある本を読みました。アジア最大のある病院の話で、その病院の院長さんが書いた本です。そこは依存症治療専門の、特に、万引き依存症を治療する病院。万引き。お客さんみたいな素振りして、物を買うフリして商品を間引くこと。盗むこと。泥棒。もうね、万引きしたらアカン。

皆さん、本屋さんは手数料1割ですよ。千円の本を売った時、本屋さんに入る利益は100円。千円の本を盗まれたら10冊売らないとペイ出来ない。取り返せない。だから、万引きで店が潰れる。それでどこも「万引きやめろ!」「万引きアカン!」「万引きは犯罪です!」

万引きやって、Gメンに捕まって、警察に連れて行かれたらどうなりますか？
裁判したら弁護士雇うために貯金はたきますよ。刑務所入ったら仕事失います。社会的信用失います。だから、万引き何回もやっている人は「もう金輪際、万引きなんかするもんか!こんな酷い目に遭って、万引きなんか二度とするもんか!」と思って、気が付いたらもうやっている。
本読んでね、夢見ました。自分がやっているという。

本人はやめたいのにやめられない。50代の主婦の場合、30代から20年以上万引きしてるんです。それをご主人も娘も知っているけどやめられない。5度目に捕まった時、執行猶予付の懲役になって、「私おかしい。何でこんな事してるんだらう。生活困っているわけじゃないのに。どうしたんだらう。」それで、そのクリニックに行って治療を受け、とてもまじめに取り組んで、ようやく万引きをやめることができるようになりました。

そうこうしているうちに娘さんが結婚し、日を変えての披露宴の当日、彼女は少し早目に会場に着いてしまったんです。「小1時間、待ち時間があるわ」とスーパーに入って、気が付いたら万引きしていた。着替えの紙袋の中に芳香剤と歯磨き。今要らない物です。Gメンに捕まって警察に連れて行かれて。娘の一生に1回の披露宴、出られない。何で、このタイミングでやるの?!
いや、本人もそうなんですよ。「何で私、こんな事するん?」

もう悩んで悩んで、悩み抜いている人たち。涙無しに読めません。
ある青年は10代半ばから万引きして、20代に入った時にはやめられない状態になっているけど、ずっと分析して行くと1つ分かることがあるんですね。
お母さんと衝突して家出するのですが、そのときに必ず万引きする。

ずっとカウンセリングを受けて分かったのは、このお母さんがものすごく強いお母さんなんですよ。息子の部屋に勝手に入って、机の中を勝手にチェックして、クローゼットの中も隅から隅まで全部チェックして、友好関係から見る番組まで全部監視下に置いて、「あなたのためを思ってやってるからね。」息子はお母さんにやめてほしいと思っているけど、強すぎるので面と向かって「やめて」と言えない。

後ろの方に結論が書いてあって、生活に困っての万引きとは違う、と言うんです。
人間というのは、自分の身近な人間関係の中での不満や、本当に言いたいことを言えない時に、手っ取り早い不満解消、この場合は抗議行動、もっと言えば復讐心も絡んでいる。
この人たちに「万引きダメでしょ」と倫理観に訴えても駄目だと。
その倫理観を押し退けても競り上がって来る「俺は言いたいことがあるんだ!」という、人間関係の歪みに由来する病気なので薬では治らない。人間関係に由来する病気は、人間関係によって癒されなければならない。どうやって?

同じような依存症の人たちと話すんですって。「私こんな事やってしまった。」「あんな事やってしまって。繰り返して。」「私もっとヒドイよ。でもね、この半年間止まっているのよ。」
この人たちに今までの自分のことを打ち明けても絶対に軽蔑しない。この人たちの前では隠さなくても

いい。自分のありのままを洗いざらい全部告げても、聞いたこの人たちは私を見限ることはない。そうやって、本当の自分をさらけ出して、ため込んで来たものを全部出して、それでも私は見捨てられないんだという、ある意味での受け入れてもらう人間関係を経験して行くことがすごく大事だと言うのです。

なぜ神様は人間に対して罪人だと言うのか？1つは「もう分かっているから、隠す必要がないんですよ。」聖書には“全ての人が罪を犯したので、神からの栄誉を受けることが出来ない”と書いてあります。神様は「全ての人は何かしら罪人で・何かしら過去に傷があって・何かしら隠し事があるって・恥ずかしい面がいっぱいあって、わたしの目には既に全部見えているので、取り繕う必要はありませんよ。わたしはあなたを、あなたが知っている以上によく知っていますよ。わたしの前では裸のあなた自身を見せても、わたしはあなたから顔を背けることはない。あなたを軽蔑しない。」罪そのものに対しては、神様は悲しみがあるでしょう。でも、罪を犯した罪人には見限りはないです。その罪の問題に対して解決があるので罪について語るんですね。

神様と私たちの関係がこじれるということは本当に大変です。人間と人間の関係でも、大事な人との関係の中で本当のことを言えない関係というのは、どちらかが我慢しますね。でも、人間の1番根本の関係というのは創造主との関係です。この関係が切れているので、神のことが分からなくなった。

聖書に“神様の手が短いから、あなた方を助けることが出来ないのではない。神様の耳が遠いので、私たちの祈りが聞こえないのではない。神とあなた方の中にある罪が、神様の祝福があなた方に流れ込んで行かない原因となっている。”この罪の問題を解決しない限り、人生の根本解決はない。そこで、神はキリストを送ってくださいました。

I ペテロ 3:18 キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。
罪のためとは、キリストは自分自身の罪のために苦しみを受けたのではないんです。
他の人の罪のために苦しみを受けられました、という意味です。

なぜ、そうだと分かるのか？正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。
正しい方は単数形。世界に今まで 700 億人以上の人々が生まれて来たと言われていますが、その中で正しいことのみをなさったのはキリストだけです。罪が全くないのはイエス・キリストだけです。
全ての人には正しくない者たち。これは複数形ですね。
正しい方が正しくない者たちの身代わりになって、十字架に掛かってくださった。

この正しい方について、少し考えたいのです。今世界中で、ものすごいロングヒットランの映画がクイーンの『ボヘミアン・ラプソディ』。分かりますか？分かる人と分からへん人と、完全に分かれてる。実は私、高校時代にロックをやってたんです。とてもそんな風に見えないじゃない？
ちょっと片鱗があるんですけど、もうね、ウワ～ッてやってましたよ。バンド名が『麗裸/レイラ』。綺麗な裸と書いて。アホちゃうかと思うんですけどね。エリック・クラプトンが好きだったんですよ。

私レスポール、リードギター。4人の時も5人の時もありましたが、そこそこライブハウスなんかでやってきました。あのクイーンの映画は見に行ってもいません。行かない。そんなん。何回か行きそうになって戻るみたいな。私英語でけひんに歌えるもんね。そんなん、どうでもいい話で。

バンドやってた時、ドラムの子とすごく仲が良かったんです。彼は中学までラグビー部で、そんなにおっきい子じゃないけど、筋肉がね、もうムキムキ。

スポーツやってると、そのスポーツ独特の体形になります。ラグビーやると首が無くなる。ホンマに。(首をすくめて)こんなん。亀になったんじゃない。ここ(首すじ)の筋肉が発達して首が無いように見える。フィギュアスケートの人に、そんな人いますか？1回転もでけへんで、そんなんやったら。それぞれのスポーツ体形。柔道の選手は柔道の体形、水泳の選手は逆三角形の体形、ラグビーはラグビーの体形してる。

その頃大阪に、ものすごく有名な暴走族で国士無双(こくしむそう)というのがあって、そのメンバー。革ジャン着てグラサン掛けて。彼と一緒に矢沢永吉(やざわ えいきち)見に行った時、怖かったわ。ホンマに。それで、パワフルなハードロックのドラム。ガーッ！青春だーっ！

時々若い兄弟姉妹(教会のクリスチャンの男性女性)が私の家に来て、「高原兄(けい/男性クリスチャンに対して“さん”)、高校の時のアルバム見せてください。」「絶対ダメー！」恥ずかしくて見せられへん。

そんないかついやツがドラムだったんですが、彼の書く文字が“可憐な少女”のような字なんですよ。え〜！と。顔と字が合(おう)てへんねん。体格と字が違うねん。どう見ても、シャイな純情可憐な少女が書いたような字。「ほ〜、すごいな。こんなギャップあるんやな」思て。

高校2年の夏休みが終わって宿題を提出します。倫理社会の授業で、自分が選んだ哲学者のことを読んで感想を書くという課題があって、彼はニーチェを選んで出したんですが、そのレポートを先生が突っ返したんです。「受け取れん。」「何ですか？」「見たら分かるだろ。」

レポートの第1表紙に赤ペンで「自分の宿題くらい自分でやれ。彼女にさせるな！お前、自分の宿題を彼女にさせて、なにがニーチェや。出直して来い！」みたいなことが書いてあって。

それ、先生の勘違いです。間違うのは無理ない。可憐な字で書いてあったから。

まさか岩窟巖(がんくつ いわお)みたいな奴が、そんな綺麗な字を書くと思てへんから。

でもね。怒ったね、彼が。「高原。ちょっと職員室、付き合ってくれや。」「お前、暴れんなよ」言うて。僕は平和主義者なんです。とにかく穏便にコトを済ませたい一心で「お前、暴れたらあかんぞ。」

万が一の時は、私が後ろから「殿！殿中(でんちゅう)でござる！」みたいな。

私が止めても吹っ飛ばされますよ。

そして行って、「先生。ちょっと言いたいことがあります。」M村先生。覚えてますよ。

「なんや？」「これ、僕自分でやったんですよ。」「何言ってるんや。」そのとき私が「それ、ほんとですよ。他の科目のレポート・ノートを全部調べてみてください。僕も意外なんですけど、彼は可憐な少女の文字を書くキン肉マンなんです。」「ホンマか？」「ほんとですよ。」

他の教科のを見せました。完全に先生の間違い。先生は潔く「(頭を下げて)悪かった」と謝ったのですが、赦さなかったんですね。卒業するまで赦してない。同窓会のたんびに、まだ言うてる。

卒業して10年経っても20年経っても、まだ怒ってんねん。

「アイツー！生徒のことも信じられへんのかーっ！あんな節穴(ふしあな)教師おるんかーっ！」

なぜ、そんなに赦さないんですか？彼の方が正しいからです。

自分の側にも少し落ち度があったり、自分にいっぱい前科があったり、誤解されるようなことを前に何回かやらかしているなら、「あんな事もあったからな…」となるけど、自分の側に何の落ち度もないのに、他人に宿題をさせたという汚名・濡れ衣を着せられた時、その怒りは晴れないんです。

実は、正しいと思われる人には1つ弱点があります。正しい人であればあるほど、他人（ひと）を赦すのが難しい。自分の方に正義の論理が立てば立つほど、相手に対する寛容さを失う傾向があるのです。しかし、人間の中に完璧に正しいという人は誰もいません。

ただ、全人類の中でイエス・キリストだけが**正しい方**なのです。誰が見ても全く正しい方。キリストが十字架に掛けられた時、その左右に犯罪人が掛けられています。その犯罪人もイエス・キリストについてこう言ってるんです。「我々は自分がした事の報いを受けているから当たり前だ。しかし、この方は何も悪いことをしなかった。」

イエスと3年半生涯を共にしたペテロは、この手紙の中で「キリスト・イエスは、その口に何の偽りもなかった。」イエス・キリストを裏切って、銀貨30枚で売り飛ばしたイスカリオテのユダは「私は罪を犯した。正しい人の血を売ったりして。彼は正しかった。」キリストを十字架に釘付けて処刑したローマ兵の上司である百人隊長は「まことに、この方は神の子であった。まことに、この方は正しい人であった。」キリストを取り巻く7種類の人7人が「イエス・キリストには何の罪もない」と言っている。

正しければ正しいほど、身に覚えのない罪をおつかぶせられた時、怒りがメラメラと燃え上がって来るというのが普通ですよ。ところが、**正しい方が正しくない者たちの身代わり**となって、全ての罪を背負って十字架に付けられたキリストが十字架の上で叫んだ、その口から出て来た最初の言葉は、呪いの言葉ではなく祈りの言葉だったのです。「父よ、彼らを赦してください。彼らは、何をしているのか自分で分からないんです。」

どんなに寛容なキリストでも、この瞬間くらいは怒鳴り散らしても許されるんじゃないですか？十字架に掛けられている瞬間は、「何で、こんなムチャクチャなことがまかり通るんだ！」のように叫んでも、それは何にもおかしいことではないと思います。でも、キリストからはそういう苦いものが1つも出て来なかった。

正しい方が汚名を着せられ、罪を被せられて十字架に掛けられているのに、なぜキリストから呪いが出て来なかったのでしょうか？キリストの十字架は、押し付けられたものではなく自発的なものだったから。**正しくない者**が神の前に罪という遮蔽物を取り除くための唯一の道は、**正しい人が身代わりになって**裁かれる。これ以外に他はない。そのことが分かった時、キリストは自ら進んで十字架を選び取られた。つまり、キリストは十字架に付けられたのではなく、自ら掛かりに行ったんです。あなたの罪を永久処分するために、ご自分の意志で自ら十字架に向かって行かれた。

キリストを十字架に向かわせた動機は何ですか？愛です。罪人に対する愛です。なぜ、神様は罪人を愛してくださるんですか？愛です。神が愛だからです。この世の愛は“I love you. Because you are beautiful/you are genius”とかの“あなたに価値があるから愛する”でしょ。でも、神様の愛は“I love you. Because God is Love.”神が愛だから、ご自分の性質に基いて愛してくださるのです。

キリストは私たちの罪を永久処分するため、**身代わり**となって苦しみを受けてくださいました。

それは、**肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。**
肉においては、肉体においては、キリストは紛れもなく死に渡されました。この方は死なれました。
そして墓に葬られました。でも、**霊においては生かされて、聖霊という神の霊・聖霊の力によって**キリストは復活させられ、よみがえりました。死を突き破って復活してよみがえりました。

私はそれを信じています。私はキリストの復活の現場を見たことはありません。でも、キリストの復活を見た弟子たちの証言を信じているのです。私は、弟子たちの証言は信じる事が出来ると思う。なぜならキリストの弟子たちは、キリストの復活を宣べ伝えるのと引き換えに、自分の人生を棒に振ったから。「キリストはよみがえった」と宣べ伝えることは、人生を台無しにすることですよ。そうしてでも、「これだけは語らずにおれない」と、よみがえったキリストのことを宣べ伝えたのです。キリストの復活で、死というもの死に至らされたということですね。

もう1冊本を読んで。よう読んでるでしょ。半分くらい立ち読みなんで、あまり大きなこと言えないけど、でも後で買いに行くから。話す時に正確でないとアカン思て。買いに行ったら無いのね。「あ！」と思った時に本買わないと後で手に入らない。僕の本、後ろにあるので、よろしかったらお買い求めください。欲しいと思う時に買わないと。

『男の孤独死』。長尾和宏（ながお かずひろ）さん、お医者さんが書いた本です。今まで自分の病院で2千人を看取り、在宅で2千人以上の臨終に立ち会った。4千人以上の人たちの看取りをした方。この本によると、今日本人は1年間に130万人亡くなっています。その中で、在宅で亡くなる方が増えていて13%、毎年約17万人が家で亡くなる。でも「家に帰って最期を迎えたい」ではなく、孤独死が増えているのです。在宅で亡くなる方の半分は孤独死です。

孤独死とは独りぼっちで死ぬ。後で発見されて「あ、亡くなってたんだ…」。
孤独死の7割以上は男性なんです。『そこで私は、男の孤独死を阻止するためにこの本を書いた。』
「私も読んでこ」思て。

夫に先立たれた妻は長生きするそうです。が、妻に先立たれた夫は後を追うそうですよ。栄養面と衛生面でクオリティがガクンと落ちるから。お酒・煙草に走ったり。料理作るのが面倒臭くて菓子パンばかり食べているうちにブドウ糖依存症になって、やがて糖尿病になって、そうなる認知症のリスクが一気に跳ね上がります。

でね、『男って生き物は寂しい生き物だ』と書いてある。女の人より早く死んで、寿命短くて、孤独のうちに死んで行くんや…。なんか、暗いわ。きっと何か答えが書いてあると思って、もうちょっと読んでみたら『そこで、私が示す解決方法はこれだ！』 二大解決方法。

①『男よ！スナックに行け！』はあ～?!なんで？

スナック、分かりますか？軽食も出してくれるバーみたいなどこ。なんでスナック？

男がなぜ孤独になるかというと、現役時代の自分の過去の栄光をひけらかすから嫌われると。

『そんなプライドは無用の長物や！無用の長物を捨てる訓練をするのに、スナックに勝る所はない。』

「俺は専務やった。」「東証一部上場で部長やった。」スナックで言ったら嫌われるんですって。だれも話しかけなくなってくる。

『そんなどうでもいいプライドを捨てる練習になるから、男はスナックに出入りしろ。それに、週1で通っていたら、ママさんが心配するようになる。』あの人、最近けえへんけど大丈夫？って。

②『しかし、男性諸君の中には酒がダメな人もいるだろう。そんな人はヤクルトを取れ！』ヤクルト?!乳酸菌って、そんな威力あるん？違う。ヤクルトを配達するのはヤクルトレディ。ヤクルトレディにはオプションで“愛の訪問”というのがあって、ヤクルト配るのと同時に、生きてはるかどうかを、というよりも、お元氣かどうかを見守ってくれるんですって。『だから、酒がアカン奴はヤクルト取れ！』で、終わってんねん。

あのね、スナック行くより集会に来てください。孤独死をいかに回避するかじゃなくて、死そのものの解決がイエス・キリストの中にあるんです。

私は幼い時、あまり理想的な家族のもとでは育たなかったんです。幼い時に父が亡くなりましたから。それで、家の中にはあまり良い思い出はない。だから、家の外側に安息を求めて、色々友達のところをほつつき歩いたような気がするんですが、「自分には、家族の中で培われて来る何か重要な部分が欠落しているんじゃないか？」というのが、いつも私の中にある劣等感でした。

それが、クリスチャンになって死の問題の解決が出来た後で、個人的な問題の解決だけではなく、同じイエス・キリストを信じるクリスチャンたちとの間に、神様との家族関係というか、兄弟姉妹の関係が与えられたんです。同じキリストを信じる者同士のこの兄弟姉妹の関係は、人工的に作り出すことは出来ません。

互いがキリストに所属し、また、互いが互いに所属しているというようなキリストの体、その体の各器官になるんですね。だから、キリストを信じるということだけではなく、キリストを信じた後、一匹狼で聖書を読んでいても、聖書が言っている本当の祝福を自分のものとして味わうことが出来ないんです。

別にね、ヤクルトを否定しているわけではないんですよ。ヤクルト持って集会に来てください。休み時間に飲んだらいいねん。

兄弟姉妹はみんな心配しますよ。家族だから。

霊においては生かされてとあるように、死そのものを克服して終わらせて、そして、よみがえってくださった。だから、人間は死んでゼロになるんじゃない。消滅するんじゃない。聖書によると、人間には1度死ぬことと、死後に裁きを受けることが定まっています。しかしね、イエス・キリストによって罪の問題を完全に解決してもらっている人たちは、死んだ後に行く所が地獄ではなく天国なのです。

この間、サッカーの準決勝でイランに勝ちました。サッカーにはロスタイムがあって、時計上はもう終わっているはずなのに、2分か3分まだゲームが進むじゃないですか。勝ってる段階のロスタイムって長いな。「早くホイッスル鳴れ！鳴れ！」プー！「ああ、勝ったー！」ホイッスル鳴ったらゲームオーバーでおしまい。勝ってる段階で終わったら気持ちいい。確定するから。

クリスチャンにとって、死は勝ってるゲームでロスタイムを生きているようなものですよ。死んでも生きんねんから。

スナックじゃないですよ。天国！“スナック ヘブン”とかやめてほしいわ。ホンマに。

あなたがたを神に導くためでしたとあるように、イエス・キリストはご自分を救い主だと信じ受け入れた人たち/私たちを、間違いなく神のみもと/天国に至るまで、その生涯を導いてくださるんですね。

私は毎年ハワイに行って聖書のお話をします。昨年も行きました。いつもホームステイさせてくださる所がオアフ島のパールシティ、パールハーバーを眼下に見下ろす、真珠湾がすぐ近くの所にあるんです。家族同然で付き合っているご家庭で、私の第2の家みたいな感じ。私、ハワイに condominium 買う必要ない。クリスチャンはあちこちに友達いるから。全部私のもんや。どうか知らんけど。

それで、「マウイ島にも日本人がいるから、マウイ島まで渡って来て、聖書の話をしてくれませんか」と言う日本人のグループがあったんです。「行きましょう！」と連絡を取ったら、その方は東住吉区出身。田辺6丁目。めっちゃ近所や。それで決めたわけじゃないけど「元東住吉区民！握手！」みたいな。奥様は通天閣の新世界、そのすぐ下の朝日劇場という大衆演劇の劇場ご存知ですか？あそこの娘さん。僕は高校時代、ようお世話になった。で、マウイ島に行って、いやあ良かった。

集会が終わって3時くらいの飛行機で、飛行機言うても、2列2列の小さな、ぎゅうぎゅう詰めの小型のプロペラ機。島から島なので小さな飛行機で、パールシティに帰るのに待機してたんです。

プロペラが段々回転数が上がって…止まった。「えっ、何なん？」

コックピット、普通見えないけど小さいから見える。機長が「あれ？」首かしげてて。めっちゃ怖い。これ、めっちゃ怖い思って。エンジン掛けるけど回転して止まる。7回も8回もやるけど、私、そろそろやめた方がええんちゃうか思って。ようやく「この飛行機は飛びません」言うんですよ。ほ〜っと。もう1度空港に戻って、新しい飛行機が来たら、それに乗ってオアフまで帰りましょうと。5時くらいまで2時間待って。また同じ機種の飛行機で大丈夫かなと思ったんですが、今度はちゃんとプロペラも回って飛びました。

ハワイは太平洋のど真ん中にあるでしょ。遮蔽物が無いんですよ。どんどん日没が近づいて、大きな真っ赤に燃えたオレンジ色の太陽が太平洋に沈んで行く。そのグラデーションは絵の具で出せない。

「綺麗なあー！」待った甲斐あったと。で、ふと反対側の窓を見たら漆黒の闇なんですよ。

こっちは美しい景色で、そっちは真っ暗。同じ飛行機なのに、こっち見たら明るい。そっち見たら暗い。

どうせなら明るい方見ようと見てたら、こっちも暗くなりました。

それを見ながら、クリスチャンの人生に似てるなと思ったんですね。

皆さん、クリスチャンになったら何でもかんでも良いことばかり続いて、やることなすこと全部成功して、楽チンな生涯が待っていると思ったら、そんなこと、イエス・キリストは保証してません。

クリスチャンになった後でガッカリすること・残念なこと・泣き叫ぶようなこと、あります。

でも、嬉しいこと・感謝なこと・恵まれたこと・じーんと来ること、それもあるんです。

明るい面を見て歩むクリスチャンがいるし、クリスチャンだけで暗いのがお好きな人もいて、暗いのばかり見て「俺のは真っ暗や」言う人もいます。

どうせなら明るい方を見たらいいかなと私は思うんだけど、暗いのしか見ない人であったとしても、行く所は一緒なんですよ。飛行機に乗り込んだ限りは家に向かっているんです。

イエス・キリストを信じると言うことは、イエス・キリストに乗り込むと言えるかもしれません。一旦キリストに乗り込んだ後、明るいこと・暗いこと、色々経験しますが、どちらにしても1番良い所に向かっているのです。そして、“終わり良ければ総て良し”ですよ。神様の究極の理想が全部実現している永遠の天国。そこを私の住み家(か)・帰るべきマイホームとして、神は喜んで待っていてくださる。だからクリスチャンは、どこで死んでも1番良い所に行きます。

そして、もっといいのはキリストが携挙してくださる事です。もしかしたら、私が死ぬよりも先に、イエス・キリストがもう1度空中まで来て、天国に一拳に引き上げてくださる。それが1番いいですよ。だって、もう痛ないもん。痛いイヤ。そのとき一瞬で私も見違えます。これ、もう五十肩治るよ。

最後に1番良いことが待っているとと思ったら、途中色んなことがあっても、持ちこたえることができます。「それまで1人で頑張れ」ではなく、キリストがいつでも私たちにエスコートして下さるんですね。なぜなら、私たちがまだ罪人であった時、正しい方が正しくない者たちのために、呪いを一切吐かずに身代わりに死んでくださるほど、あなたを愛している方だからです。

どうぞ、あなたのために死んで墓に葬られ、3日目によみがえったイエス・キリストを、ご自分の救い主として信じ受け入れてください。心からお勧めしたいと思います。

~~~~~

- \* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- \* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約15分)もぜひどうぞ。YouTube もあります。
- \* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi